

2023 年春夏企画

「美しい HUG !」 が本格始動

10/1 きむらとしろうじんじん八戸野点 2022 in 美術館マエニワ、黒川岳作品設置、「美しい HUG !」特設 WEB サイトオープン



左|きむらとしろうじんじん《野点》鳥取市用瀬町駅前(2006年) 写真:田中良子 右|黒川岳《listening to stone》2018年

「美しい HUG !」は、ゲストキュレーターに、東京都歴史文化財団アーツカウンシル東京・東京アートポイント計画ディレクターの森司氏を迎え、2022年6月よりスタートさせている「プロジェクト」と、2023年春夏に開催する「展覧会」で構成する企画です。

野点プロジェクトの開催や、特設 WEB サイトの開設、美術館前広場への黒川岳の作品《listening to stone》の設置など、いよいよプロジェクトや展示準備が本格始動します。

10月1日(土)ゲストキュレーター森司氏が八戸市美術館来館、13:30より報道関係の皆様向けに、企画趣旨などお話しします。

野点プロジェクト開催に合わせ、「美しい HUG !」ゲストキュレーターの森司氏が来館します。「美しい HUG !」についてさまざまお答えしますので、ぜひ取材をご検討ください。

プレス向け説明会| 10月1日(土)13時30分～14時ごろ **場所**| 八戸市美術館館内

説明者| 森司(「美しいHUG!」ゲストキュレーター)、佐藤慎也(八戸市美術館館長)、大澤苑美(八戸市美術館学芸員)

お問い合わせ先

八戸市美術館 031-0031 青森県八戸市大字番町10-4 TEL | 0178-45-8338(代表番号) FAX | 0178-24-4531
E-mail | art@city.hachinohe.aomori.jp 八戸市美術館公式 HP | <https://hachinohe-art-museum.jp>
広報担当者|大澤、山内 本展覧会担当学芸員|大澤、篠原



「美しい HUG！」コンセプト

八戸市美術館が掲げる「出会いと学びのアートファーム」のコンセプトを、当館が展開する事業の2つ柱「展覧会」と「プロジェクト」で体現する企画として、ゲストキュレーターに、元・水戸芸術館の学芸員で、現在は東京都歴史文化財団でさまざまなプロジェクトを統括する森司氏を迎え、「美しい HUG！」を開催します。

人々は、相手に愛情や友好関係を表現するコミュニケーションとして“HUG(ハグ)”をします。日本では、欧米のような日常的なハグの慣習はありませんが、意見や価値観が異なりつつも相手を認める時、敵対のないことを伝える時、試合で負けた相手にその強さと健闘を讃える時など、尊敬の念を持って交わし合うハグを思い浮かべる人も多いのではないのでしょうか。コロナ禍で、世界的にも、ハグは回避することが推奨される状況ですが、現代社会においては、他者と必ずしも同一になるのではなく、それぞれが異なったまま出会い、リスペクトの上、エールを送り合うようなハグのマインドが求められている時代かもしれません。

新しくなった八戸市美術館では、「美術館での展覧会」と「地域でのアートプロジェクト」が有機的に交わるあり方や、さまざまな立場の人が作品を通じてハグをするように出会う場を生み出したいと考え、開館後2回目の春を迎える八戸市美術館の企画テーマとしました。

展覧会とプロジェクト、アーティストと八戸、音楽と美術、過去と未来、見えないものと見えるもの…。さまざまな HUG を八戸市美術館から生み出し、そのことがこの美術館と地域を育む種となることを期待して、この企画を実施します。

きむらとしろうじんじん野点 in 八戸 10月1日(土)美術館マエニワで開催決定!

陶芸家・美術家のきむらとしろうじんじんが1995年から続けている「野点」は、窯を積んだリヤカーごとまちに繰り出し、参加者が絵付けをしたお茶碗を路上で焼き、お抹茶を振る舞うプロジェクトです。八戸では、2022年6月から活動をスタートし、10月1日(土)の野点は、公募のプロジェクトスタッフ(アートファーマー)とのおさんぽ会を経て、八戸市美術館のマエニワでの開催が決定しました。参加者が絵付けをしたお茶碗はその場で焼き上げられ、自作のお茶碗でお茶を楽しめます。

八戸野点 2022 in 美術館マエニワ

開催日 | 10月1日(土) 雨天決行(荒天中止)

時間 | 昼ごろ(11:30ごろを予定)から日暮れまで

会場 | 八戸市美術館マエニワ

参加費 | お茶碗絵付 2,000円 お抹茶 300円

運営 | 八戸野点プロジェクトチーム(アートファーマー)



鳥取市用瀬町駅前(2006年) 写真: 田中良子

きむらとしろうじんじん野点

素焼きのお茶碗と陶芸窯・お茶道具一式を積んだリヤカーで、街かどや山の中、海辺など、その土地のさまざまな場所に出現。参加者がその場で絵付けをしたお茶碗を楽焼という方法でその場で焼き上げ、自作のお茶碗で「その土地の・その日・そのときの風景の中で」お茶を楽しんでもらう…陶芸お抹茶屋台-移動式カフェ-旅回りのお茶会です。

ドラッグクイーン姿のチャームिंगなじんじんが屋台とともにまちに現れると野点スタート。不思議で魅惑的な光景に、思わずいろいろな人が足を止め、野点の場が広がっていきます。



きむらとしろうじんじん | 1967年新潟生まれ、現在京都在住の陶芸家・美術家。
滋賀県信楽町長野(2012年) 写真: 梅田彩華



おさんぽ会の様子





黒川岳 《listening to stone》 美術館前広場に石の彫刻作品を先行設置

来春開幕の展覧会に先駆けて、9月中旬に、美術館前の広場、マエニワ・オクニワに、黒川岳の石の彫刻作品《listening to stone》を設置します。この作品は、石にあいた穴に鑑賞者が頭を入れ、石に集まる音を聞く彫刻作品です。今回設置するのは、神戸の六甲山の石で制作された全10点で、今後、八戸の石を使った作品を新作として追加で制作し、来春の展覧会開幕時に合わせて展示します。

作品設置作業予定 | 9月16日(金)～17日(土)



黒川岳 《listening to stone》2018年

「美しいHUG！」特設WEBサイトを開設

「美しいHUG！」では、この企画の情報発信に特化したWEBサイトを開設します。9月よりティザーサイト(仮サイト)をオープンさせ、10月より本格始動させます。今後、アーティスト情報、プロジェクトのプロセス、作品準備の様子や記録を掲載していきます。

URL | <https://utsukushii-hug.jp>

ティザーサイトオープン | 2022年9月2日(金)

本サイトオープン予定 | 2022年10月1日(土)





「美しいHUG！」概要

企画名称	美しいHUG!
展覧会会期	2023年4月29日(土)～2023年8月28日(月)
プロジェクト会期	2022年6月11日(土)～
会場	八戸市美術館(ホワイトキューブ、ブラックキューブ、コレクションラボ、ジャイアントルーム、マエニワ・オクニワを予定)
主催	八戸市美術館

※会期中の休館日、観覧料・割引制度などは決定次第発表します。

参加アーティスト	青木野枝、井川丹、川俣正、きむらとしろうじんじん、黒川岳、タノタイガ
ゲストキュレーター	森司(東京都歴史文化財団アーツカウンシル東京事業部事業調整課長/東京アートポイント計画ディレクター)
担当学芸員	大澤苑美、篠原英里、齊藤未来、高橋麻衣、田村由衣、平井真里

ゲストキュレータープロフィール



森 司 MORI Tsukasa

1960年愛知県生まれ。前職の水戸芸術館現代美術センター学芸員時代(1989-2009)には、川俣正、日比野克彦、宮島達男などの個展を企画する。2009年より公益財団法人東京都歴史文化財団アーツカウンシル東京事業部事業調整課長。「東京アートポイント計画」ディレクターとしてNPOなどと協働したアートプロジェクトの立ち上げから企画運営に関わり、人材育成プログラム「Tokyo Art Research Lab」を手掛ける。2011年7月から2021年3月まで「Art Support Tohoku-Tokyo(ASTT)」を担当した。2015年より東京都オリンピック・パラリンピックリーディング事業ディレクターとして、障害の有無、世代、性、国籍、住環境などの背景や習慣の違いを超えた多様な人々の出会いによる相互作用を表現として生み出すアートプロジェクト「TURN」を担当し、TURN フェスなどを実施する。東北芸術工科大学客員教授、女子美術大学特別招聘教授。



参加アーティストプロフィール



青木野枝《霧と山》2019年、鹿児島県霧島アート森での展示 撮影：山本紉 courtesy: ANOMALY (イメージ画像)

青木 野枝

AOKI Noe

1958年東京都生まれ、埼玉県在住。1983年武蔵野美術大学大学院造形研究科修了。鉄板から円盤形や丸の形、直線など、基本となる形に溶断したパーツをつなぎ合わせ、創作の初期から生命やその働き、生命の源である自然を循環する水の姿を表現してきた。

霧島アートの森(鹿児島)や府中市美術館(東京)での個展開催のほか、瀬戸内国際芸術祭(香川)などの芸術祭では地域の自然や歴史と調和する屋外インスタレーションを制作するなど、注目を集める。

主なコレクション先に国立国際美術館、愛知県美術館、豊田市美術館、主な受賞歴に芸術選奨文部科学大臣賞、毎日芸術賞、中原悌二郎賞がある。



井川丹《TURN NOTES》2021年「TURN フェス6」 撮影：富田了平 (イメージ画像)

井川 丹

IKAWA Akashi

1984年埼玉県生まれ、千葉県在住。東京藝術大学音楽学部作曲科卒業。「人の声」を創作の中心に据え、表現活動を行う。演奏会用作品やサウンドインスタレーションの制作をはじめ、美術家、建築家、ダンサー等との共同制作のほか、近年はアートプロジェクトへの参加、市民参加型ワークショップ、子ども創作教室のファシリテーション等を通じて、音を介した表現/コミュニケーションを拡張させ、居合わせた者が多様な身の置き方のできる「場」作りを探求している。

近年参加のプロジェクトに、Memorial Rebirth 千住 2018 西新井(東京/2018年、大巻伸嗣作品への参加)、TURN フェス6(東京/2021年)など。



川俣正《Under the Water》2016年、ポンピドゥ・センター・メス

川俣 正

KAWAMATA Tadashi

1953年北海道生まれ。フランス在住。1982年のヴェネチア・ビエンナーレ以降、世界各国の国際展やグループ展に参加し、2005年横浜トリエンナーレでは総合ディレクターを務める。東京藝術大学先端芸術表現科主任教授、パリ国立高等芸術学院教授を経て、現在もパリを拠点に活動。完成までのプロセスを作品とみなすワーク・イン・プログレスの手法を基本とし、公共空間に木材を張り巡らせるなど大規模なインスタレーションが多く、建築や都市計画、歴史学、社会学、日常のコミュニケーション、あるいは医療にまでその領域は多岐にわたる。東北では、「仙台インプログレス」(宮城県仙台市沿岸部/2017年~)や、「Reborn-Art Festival 2021-22[後期]」(宮城県石巻市/2021~22年)でプロジェクトを展開している。第63回芸術選奨文部科学大臣賞受賞(2012年度)。



滋賀県信楽町長野(2012年) 写真:梅田彩華

きむらとしろうじんじん

KIMURA Toshiro JINJIN

1967年新潟県生まれ、京都府在住。京都市立芸術大学大学院美術研究科で陶芸を学ぶ。1995年から、参加者がお茶碗に絵付けを施し、その場で焼き上げられた自分のお茶碗でお茶を楽しむ移動式陶芸お抹茶屋台「野点」を全国各地で開催。「もっともチャームングな」服装で参加者をもてなし、路地・空き地・公園などに一期一会の風景や交流を生み出している。青森県では、1999年に青森市、2005年に青森市と弘前市で開催。また、水戸市で参加者がオリジナル屋台を開く「野点2008+妄想屋台祭り」(水戸芸術館/2008年)を開催。一般社団法人「谷中のおかって」とともに、こども創作教室「ぐるぐるミックス」の立ち上げに関わる(2010~2013年度)。



黒川岳《listening to stone》2018年

黒川岳 KUROKAWA Gaku

1994年島根県生まれ、京都府在住。2016年東京藝術大学音楽学部音楽環境創造科卒業、2018年京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程彫刻専攻修了。物体や環境と身体との関係に着目し、捉え難いものを捉えようとする試みの中で、音や風、水、生物など様々な対象と自身の身体を直接関わらせながら、素材との関係性が「触れる」という感覚に置き換わるときに生まれる物のかたちや所作を彫刻やパフォーマンス・音楽などの作品で表現している。近年の展覧会に、「甕々の声」(アトラボあいち/2021年)、「奥の工場見学」(千丸屋京湯葉本店/2021年)などがある。「六甲ミーツ・アート芸術散歩2018」公募大賞準グランプリ(2018年)。

タノタイガ《タノニマス》2007年 ©白井晴幸
東京都現代美術館での展示風景(2019年)

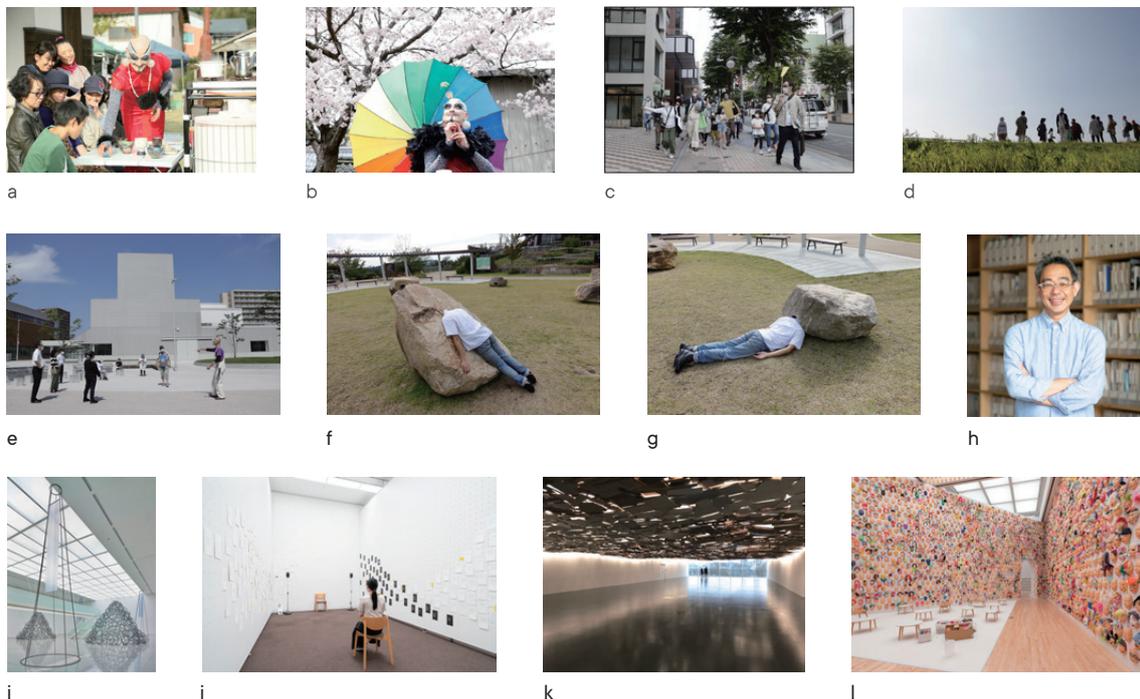
タノタイガ

TANOTAIGA

東京都生まれ、仙台育ち、東京都在住。東京造形大学彫刻科卒業。東北芸術工科大学大学院修了。立体造形、映像、パフォーマンスなど素材にとらわれない多様な表現手法によって、社会制度やルール、法律などの記号性と媒体性を誇張した風刺的表現を行う。ときには、作家自身を媒体化することで日常に埋もれた社会や集団の倫理性を表出させ、作品にはユーモアと毒を兼ね備える。主な展覧会に「タノンティア資料室」(せんだいメディアテーク/2011年)、「あそびのじかん」(東京都現代美術館/2019年)がある。



広報用画像



[キャプション]

- a 鳥取市用瀬町駅前(2006年) 写真: 田中良子
- b 滋賀県信楽町長野(2012年) 写真: 梅田彩華
- c, d, e. キャプション不要
- f, g. 黒川岳《listening to stone》2018年
- h キャプション不要
- i 青木野枝《霧と山》2019年、鹿児島県霧島アートの森での展示 撮影: 山本糾 courtesy: ANOMALY
- j 井川丹《TURN NOTES》2021年「TURN フェス6」 撮影: 富田了平
- k 川俣正《Under the Water》2016年、ポンピドゥー・センター・メス
- l タノタイガ《タノニマス》2007年 ©白井晴幸 東京都現代美術館での展示風景(2019年)

広報用画像をご希望の方は、【1. 会社名 / 組織名、2. 媒体名・媒体の種類(雑誌、テレビ、webなど)、3. ご担当者名、4. ご連絡先、5. 掲載/放送予定日、6. 画像到着希望日、7. ご希望の写真が掲載されているプレスリリースの発行日、8. ご希望の写真記号】をメール、または FAX に明示の上、下記、お問い合わせ先までご連絡ください。

[画像の貸出条件]

- 画像は本企画・美術館の紹介の目的のみにお使いいただけます。• 画像データは第三者へ譲渡せず、使用後すみやかに消去してください。
- 画像のトリミングについては事前にご相談ください。 • 作品画像の上に図や文字を重ねることはできません。 • 画像を掲載、放送する際には、指定のクレジット表記を必ず入れてください。• 画像を掲載、放送する前に、ゲラ等掲載案をお送りください。担当者が確認します。 • 新聞紙、雑誌、書籍等の印刷物に画像を使用する際は、八戸市美術館に1部ご寄贈ください。

お問い合わせ先

八戸市美術館 031-0031 青森県八戸市大字番町10-4 TEL | 0178-45-8338(代表番号) FAX | 0178-24-4531
 E-mail | art@city.hachinohe.aomori.jp 八戸市美術館公式 HP | https://hachinohe-art-museum.jp
 担当者(広報)|大澤、山内 本展覧会担当学芸員|大澤、篠原